

第1回「知床遊覧船事故対策フォローアップ委員会」議事概要

日 時：令和5年10月12日（木）10:00～12:00

場 所：合同庁舎3号館4階 幹部会議室

出席委員：山内委員長、河野真理子委員長代理、安部委員、梅田委員、
加藤委員、河野康子委員、小松原委員、庄司委員、高橋委員、
田中委員、中山委員、眞嶋委員、南委員

議事次第に沿って、事務局から資料の説明を行い、意見交換を行った。主な意見は以下のとおり。

- 個々の安全基準が設定されている背景についてしっかりと共有し、当該安全基準の遵守なくしては事故に至りかねないということを認識する体制の構築が重要。
- 船舶検査を行う日本小型船舶検査機構の検査員について、その資質をしっかりと確保することが重要。
- 日本小型船舶検査機構自身が今後進めていく取組について、国もしっかりと評価・支援していくべき。
- 地域協議会は、日々の運航判断などに係る情報や、安全に対する意識に関して、関係者間で共有する場として非常に有意義であり、地域毎の特性を踏まえた柔軟なものとしつつ、積極的に進めてほしい。
- 安全規制を各事業者が確実に遵守するためには、民間事業者間での相互の監視も有効だと考える。
- 地域協議会については、海域の特性等に関し、漁業関係者が有する知識やノウハウもしっかり活用すべき。
- 地域協議会は、特定の事業者が排除されたり、利益相反の状況が生じたりしないように留意すべき。
- 緊急時に備えて、避難港の利用訓練を確実に実施しておくことが重要。
- 各種の制度の施行前において、その内容を予め事業者十分に周知し、意識づけていくことが重要。
- 経営トップの意識付け、コンプライアンスが重要。
- 安全に関する責任を担うべき管理者や船長が、心構えを持つことが重要。適切な判断を行うために必要な知識を十分得ることができるようになるべき。
- 今後、事故を風化させないよう、継続した対応が重要。事業者に負荷をかける部分もあると思うが、利用者の安全・安心を確保する観点からしっかりと向き合っていくことが非常に重要。

以上